

株式会社WOWOWプラス 番組審議会議事録 (2019年1月17日開催分)

開催年月日： 2019年1月17日(木) 11:00~13:30

開催場所： 株式会社WOWOWプラス 会議室

委員の出席： 委員の総数 7名

出席委員数 8名

出席者

[審議員] 池ノ辺直子、音好宏、草場滋、高寺成紀、富澤一誠、
村上典吏子、湯浅正敏

(以上 50 音順、敬称略)

[放送事業者] 牧野力、宮澤辰之、松田健吾、井田勇、山下泰司、
内藤友基、池田綾香(記)、渋谷明子(記)

議題： (1) 2018年10月~12月のシネフィルWOWOWに対する視聴者からの問
い合わせや指摘・意見について
(2) シネフィルWOWOWの番組内容、編成内容に関する審議

報告事項： 2018年10月~12月におけるシネフィルWOWOWに対する視聴者からの問
い合わせや指摘・意見について、当社編成制作局長より、その件数や代表
的な内容といった概要説明を行った。

審議事項： [審議番組] 世界がふり向くアニメ術 出崎統

<番組概要>

シネフィルWOWOWで2018年10月より開始した新枠「世界がふり向くアニメ術」(毎月第一日曜日の午後9:00)。今日、世界中のクリエイターに刺激を与え、多くのファンを持つ日本のアニメ作品。この番組では、名作の本編と共に、アニメ研究の第一人者・氷川竜介氏による解説や、制作に携わったスタッフたちのインタビューを放送。演出、作画等の「術」に焦点を当て、作品の魅力を紐解く。11月は『劇場版 エースをねらえ!』『劇場版 あしたのジョー2』の出崎統監督。

審議内容： ■審議員意見

- ・氷川氏の解説があることで、視聴者に作品を見る「道筋」をつけることができていた。『劇場版 エースをねらえ!』が公開された1979年は、アニメが子供の文化から中高生~大人のものへと広がった特別な年。氷川氏の知識を活かして、「日本のアニメ史」をもっと掘り下

げても良いのではないか。

- ・歴史としての日本アニメーションの重さ、深さ、楽しさ、頑張ってきた部分を伝えるのであれば、解説で引用された作品については、ひとコマでも映像をつかって紹介して欲しい。
- ・アニメーションの歴史・文化を発信しているところが興味深い。良質な作品にこだわり、ターゲットの視聴者が、安心して観られる、喜んでもらえるものを提供し続けて欲しい。
- ・アニメと共に育った世代にとって、子供の頃に観ていたものが、今となってはエポックメイキングな作品だったということがよく分かる。虫プロ、東映動画から今に至る歴史を考えると、もっと濃くできる余地があり、先につながる番組企画。この番組を続けることで、日本のアニメを体系化できるのではないか。
- ・これまで、なんとなく見流していたアニメについて、「作品の見方」をより深く教えてくれる。本編前は「作品背景」、本編後に「術」を詳しく解説する構成が良い。これからも「作品の見方」というものをひとつのテーマにして続けて欲しい。
- ・アニメ専門チャンネルとの差別化は、作品選定からも見て取れる。氷川氏の話は非常に面白くもっと聞きたいが、これ以上多いとおそらく、飽きてしまう。「日本のアニメ文化史」をしっかりと作れば、海外にもセールスできる番組となるのではないか。

■審議員長総評

- ・氷川氏の解説は、内容が濃いのもっと厚くしても良い。アニメ技法、アニメ文化史を伝えることは、かつて見ていた世代には再発見を、今のアニメを見ている世代には驚きを生み出す。せっかく撮られた解説の部分を、再利用・再編成することも検討して欲しい。

連絡事項： 次回番組審議会は、2019年4月18日（木）午前11：00開催予定。

以上